



昭和34年4月18日制定

あさひ

学校便り 6月号
平成26年5月30日
横浜市立旭小学校

人とかかわる力

校長 伊藤 博夫

梅雨の季節を迎えました。校庭にある児童が育てている植物も背丈が伸び、緑が一層濃くなってきました。

さて、14日に土曜参観・懇談会を行います。ご家庭で見ているお子様と、学校生活の中でのお子様の様子に違いはないかを見ていただければ幸いです。各ご家庭はあくまでも個人生活の場、学校は集団生活の場です。その意味で、家庭と学校では、児童は違った行動、違った様子を見せるのが、むしろ当然のことと思います。特に、学校では、たくさんの人間関係の中で過ごしています。そして、「人とかかわること」で、多くのことを学んでいくのですから。

ところで、今、日本の児童（本校も少しは関係があるかも）は、この「人とかかわる力」について、大きな問題を抱えているように思います。それは、簡単に言いますと、「人とうまくかかわれない」「かかわり方を知らない」「かかわることを嫌がる」と言った様々な問題が増えてきているようだからです。端的に言いますと、「人とかかわる力」が低下してきているのではないかと思います。

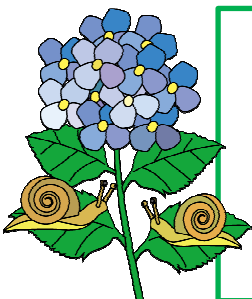
なぜ、「人とかかわる力」が低下してきているのでしょうか。その原因については、「家族の中の人数が少なくなったから」という意見もありますが、それだけではなく、人とのかかわり方を積極的に教えられていないことによるのではないかと思います。学校でも、ひよっとしたら家庭でも……。

「挨拶の仕方」「相手の認め方」「自己主張の通し方」「相手への譲り方」「仲直りの仕方」「世話の仕方・され方」などの「人とのかかわり方」を幼いときから教えられていないと、「人とかかわる力」の基礎・基本が身につかないままになってしまうのではないかと考えるのです。「人とかかわる力」が身につけていないままに、学校という集団生活に参加する児童は、戸惑ったり嫌がったりする行動に出ることが多いように思います。

幸い本校では、縦割り活動で異学年交流をしたり、長期の宿泊体験学習を実施したりしています。児童は、単に楽しい校外活動であるというだけではなく、大事な「人とのかかわり方」もしっかりと学んでいてくれるものと確信しています。ご家庭でも学校の教育活動にご理解をいただくと共にご家庭におきましても、ご配慮願えればと思っています。

5月の上旬の雨の降っている日に、校長室へ6年生の女子2名の訪問がありました。要件は、「下校時の正門の開け方」でした。低学年は、傘をさしていると体が小さいので正門の横の通用門は通行しにくいというものでした。なるほどと思いました。そこで早速、雨の日は正門を開けることにしました。自分のことだけでなく全校児童のことを考えられる高学年生、頼もしく素敵だなと思わずにはいられませんでした。

6月の取組目標



生活目標

きれいな学校にしよう

保健目標

病気や虫歯をなくそう

清掃目標

雨具のしまつをじょうずにしよう

給食目標

清潔に心がけて食事をしよう